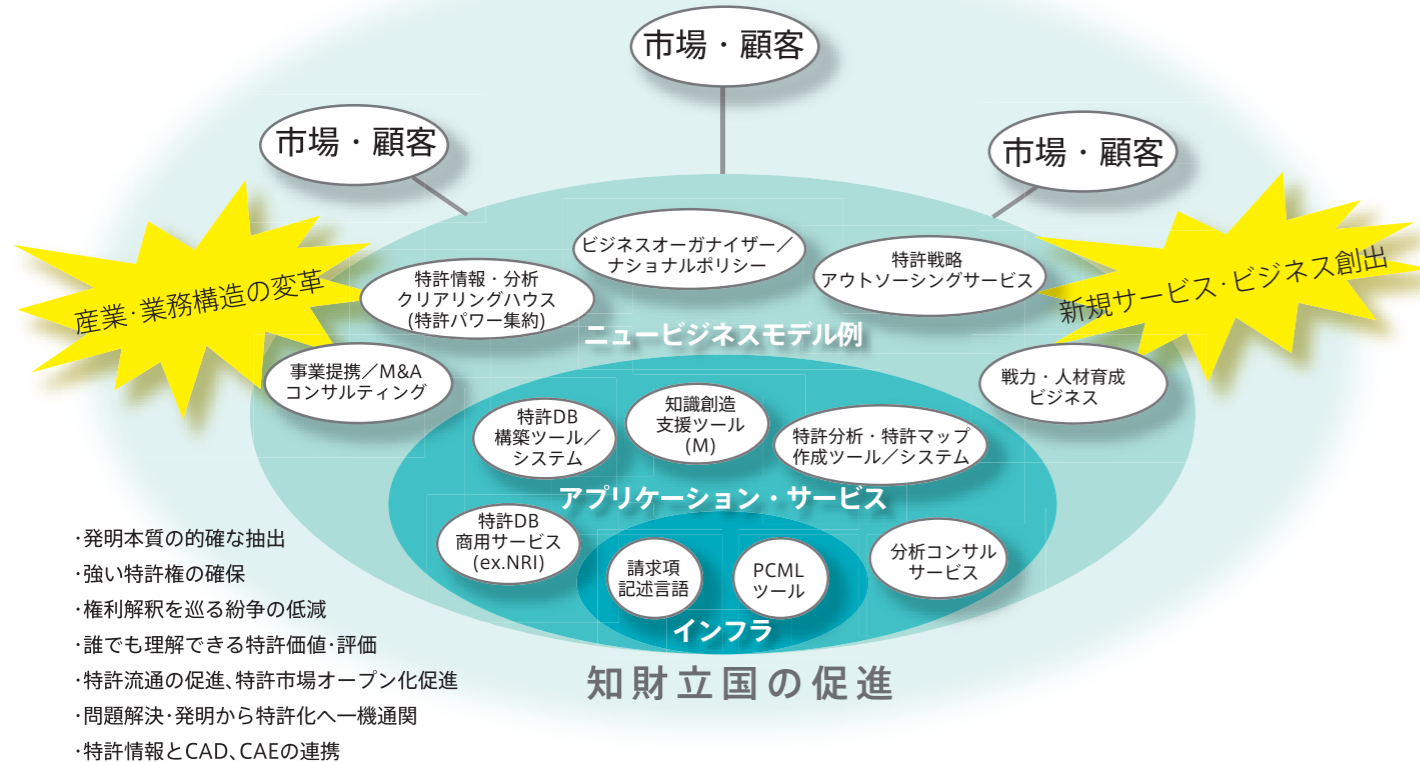


# 請求項の記述言語を変えると世の中が変わる

## 知的創造サイクルへの波及効果

今後の展開 ~技術や事業を結合する機能~

PCMLを用いることによって、特許請求の範囲の記載を読みやすくするだけでなく、請求項記載の発明を実施するために必要な技術を掲載したWebページへのリンクや、実現するためのCADデータモジュールや製品へのリンクを張ることが可能となります。請求項は、「技術的立ち入り禁止区域」だけを表現するものから、「技術結合」や「事業結合」をも表現するものになり、新たなビジネスチャンスを生み出します。



## タグ付けされた請求項

田中耕一さん(ノーベル賞受賞者)の発明のPCML化シミュレーション 3

<請求項表現型>ジェブソン型</請求項表現型>

<前提部> <構成要素> <構成要素名>イオン源(1) </構成要素名></構成要素>と、

<構成要素> <定義部>このイオン源(1)から引き出された<入力>イオン<源>イオン源(1) </源> </入力>を質量分離する</定義部> <構成要素名>質量分析部(2) </構成要素名></構成要素>と、

<構成要素> <定義部>この質量分析部(2)で質量分離して取り出された<入力>イオン<源>質量分析部(2) </源> </入力>を電子に変換する</定義部> <構成要素名>イオン電子コンバータ(4) </構成要素名></構成要素>と、 <構成要素> <定義部>変換された<入力>電子<源>イオン電子コンバータ(4) </源> </入力>を検出して電気信号として取り出す</定義部> <構成要素名>電子検出器(3) </構成要素名></構成要素>とを備える <発明の名称>質量分析装置</発明の名称></前提部>において、

<外的付加><構成要素> <修飾部>前記質量分析部(2)とイオン電子コンバータ(4)との間に配置された</修飾部> <構成要素名>サブスリット(10) </構成要素名></構成要素>と、

<構成要素> <定義部>イオン源(1)に印加するイオン引出電圧をV0、サブスリット(10)に印加する電圧をVs、イオン電子コンバータ(4)に印加するコンバータ電圧をVcとした場合に、Vs=V0-k1、Vc=V0-k2 (ただし、k1、k2は定数の関係を満たすように、V0の設定に応じてVs、Vcをそれぞれ決定する</定義部> <構成要素名>電圧制御手段(12) </構成要素名></構成要素>を備えることを特徴とする</外的付加><発明の名称>質量分析装置</発明の名称>

### PCML用概念辞書

<汎用辞書>http://dictionary.goo.ne.jp/</汎用辞書>

<単語>画像  
<下位概念語>カラー画像</下位概念語>  
<下位概念語>薄紙画像</下位概念語>  
<下位概念語>白黒画像</下位概念語>  
<下位概念語>X線画像</下位概念語>  
<下位概念語>赤外線画像</下位概念語>  
<上位概念語>映像</上位概念語>  
</単語>

<単語>画像装置  
<同義語>撮像手段</同義語>  
<下位概念語>テレビカメラ</下位概念語>  
<下位概念語>ビデオカメラ</下位概念語>  
<下位概念語>C Dカメラ</下位概念語>  
<上位概念語>画像入力装置</上位概念語>  
<製品情報>http://www.kakaku.com/sku/Price/videocamera.htm</製品情報>  
<単語定義>対象の特性を観測して、対象の特性を示す画像情報出力する装置</単語定義>  
</単語>

<単語>画像表示装置  
<同義語>画像表示手段</同義語>  
<下位概念語>液晶表示装置</下位概念語>  
<下位概念語>C R T表示装置</下位概念語>  
<下位概念語>カラー画像表示装置</下位概念語>  
<製品情報>http://www.kakaku.com/sku/price/tv.htm</製品情報>  
<製品情報>http://www.kakaku.com/sku/price/lcd.htm</製品情報>  
<上位概念語>表示装置</上位概念語>  
</単語>

# 請求項のCADシステム PCML

## PCMLとは

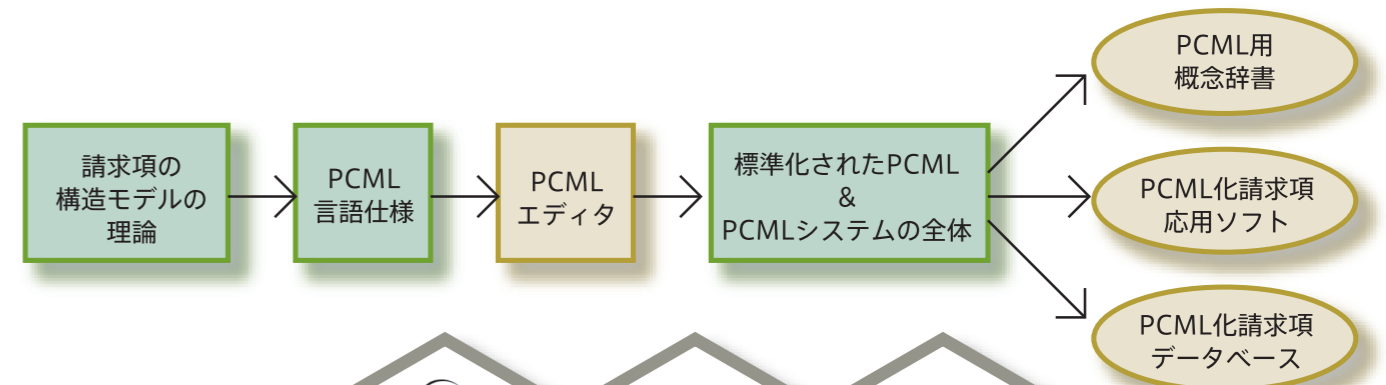
請求項記述言語(Patent Claim Markup Language 略称:PCML)は、権利範囲の境界を明確にし、発明の本質を人間にもコンピューターにも理解しやすい構造を持つように、請求項をタグ付けして表記する為に用いる言語。機能設計ツールで作成された設計データの記述用、製品の技術構造を表現するためにも使用できる。

PCMLの基本的な機能

- a. 技術構造の可視化機能
- b. 技術構造の評価機能
- c. 技術構造の比較機能
- d. 技術構造の統合機能
- e. 機能の結合を示す知識

## PCML産学連携プロジェクトとは

知的財産マネジメント研究会(Smips)特許戦略工学分科会は、強い特許権の取得を可能にし、権利範囲の解釈を容易にするため、特許明細書の特許請求範囲をコンピュータ向きの構造化されたPCMLで書くことを世界で初めて提唱し、2005年1月より3大学3企業共同で調査研究する産学連携プロジェクトを立ち上げました。PCML仕様を確立し、明細書作成・特許調査・知財価値評価等のスピードUP、知財紛争の防止等に役立つことを願っております。



知的財産マネジメント研究会(Smips)  
特許戦略工学分科会

PCMLについての詳しい情報は下記URLをご覧ください

[http://groups.yahoo.co.jp/group/Patent\\_Strategy\\_Engineering/](http://groups.yahoo.co.jp/group/Patent_Strategy_Engineering/)